

地域振興会議会長会 資料

令和 6 年 8 月 7 日

担 当 課 青谷町総合支所地域振興課

電 話 0857-30-8692 (内線 6921)

鳥取県立青谷かみじち史跡公園を活用した地域活性化の取組について

●青谷上寺地遺跡について

青谷上寺地遺跡は、平成 3 年青谷羽合道路の建設予定地を踏査。平成 8 年試掘調査。平成 10 年 4 月より発掘調査が始まる。当初から多種多様な保存状態の非常に良い遺物が出土。「地下の弥生博物館」とも呼ばれて、研究者はもとより、多くの人々から注目されるようになった。その後の調査で、日本海沿岸の潟湖に臨む弥生集落が他地域との交流を通じて発展する姿を示す典型的な例と言われ、そのことと相俟って、弥生時代の生活の様子を具体的に検討できる重要な遺跡として、平成20年3月28日に国の史跡に指定された。



●青谷上寺地遺跡のガイダンス施設整備

【鳥取市青谷上寺地遺跡展示館】

鳥取市青谷上寺地遺跡展示館は、青谷上寺地遺跡出土遺物等を展示紹介するとともに、体験学習・情報発信の拠点となることを目的に、旧青谷町により平成13年8月に設置された。新しい青谷上寺地遺跡のガイダンス施設の開館に伴い、令和 5 年 11 月 23 日(木・祝)をもって閉館。



【青谷かみじち史跡公園】

青谷上寺地遺跡の出土品のうち 1353 点が、令和元年7月に国の重要文化財に指定された。こうした重要な文化財を適切に保存し、活用するために鳥取県と鳥取市が「青谷かみじち史跡公園」の整備事業を行っており、令和 6 年3月 24 日に、展示ガイダンス施設(愛称:YAYOINE(やよいーね))や「弥生の湿地ひろば」など、山陰自動車道の南側の地区をオープン。今後、北側の史跡整備を経て令和 11 年度頃にグランドオープンの予定。



●青谷上寺地遺跡に係る地域の取組

【青谷上寺地遺跡を学ぶ会】

遺跡から多くの重要な遺物が出土する中で、地域住民から「地下の弥生博物館」とまで言われる天下に誇るこの遺跡を、自分たちのものとして学習することが出来ないか」という声があがり、妻木晩田遺跡の「むきばんだやよい塾」の結成にも触発され、平成12年8月に発足。

■おもな活動

- ・学習会(講演会・見学会・古代体験など)を年6回
- ・研修旅行
- ・古代体験ものづくりワークショップ
- ・研修旅行1泊2日(唐子・鍵遺跡、大阪歴史博物館)

【青谷上寺地遺跡友の会】

青谷上寺地遺跡展示館の開設にあたり、ボランティアガイドの養成のため発足。ガイドとしての最低限備えておかなければならない知識・技術を身につけることの研修活動を始め、青谷上寺地遺跡展示館でのガイド補助、ものづくり活動の指導などの活動を実施。

■おもな活動

- ・コスモス田耕うん・草刈り・植栽
- ・あおや文化まつり展示
- ・青谷小学校お泊り学級 展示館見学と土器作り体験(補助)
- ・むきばんだまつり参加 青谷上寺地遺跡出土品紹介、貝輪づくり、餅つき

なお、「青谷上寺地遺跡を学ぶ会」と「青谷上寺地遺跡友の会」は令和3年5月に統合し、現在は「青谷上寺地遺跡クラブ」として活動を継続中。

●青谷かみじち史跡公園での地域住民の参画

青谷かみじち史跡公園内で来場者への案内や体験活動などの支援を行うため、ボランティアを登録しており、地元住民を中心に様々なボランティア活動に取り組んでいる。

■おもな活動

- ・体験学習プログラムのサポート(ものづくり講座、弥生の農耕体験など)
- ・史跡のボランティアガイド(※今後実施予定)



●青谷町総合支所の取組について

青谷町総合支所では、令和3年度に策定した鳥取市青谷町版総合戦略（第2期）において、「青谷上寺地遺跡整備による交流人口とにぎわいの創出」を基幹的重要施策に位置付けており、青谷上寺地遺跡を青谷地域の重要な地域資源として、地域活性化や観光振興に繋げていく。

青谷かみじち史跡公園のオープンに向けて、史跡公園への案内をスムーズに行うため案内看板等の設置を進めるほか、行政と地域住民との協働による「青谷おもてなしプロジェクト」を立ち上げ、地域一体となって史跡公園を訪問する観光客のおもてなし環境の向上に取り組む。

●青谷かみじちおもてなしプロジェクトについて

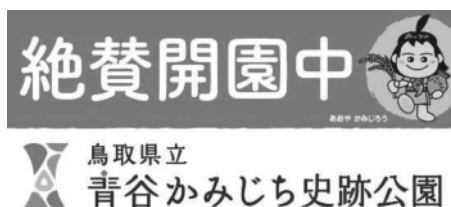
青谷かみじち史跡公園を訪問する観光客のおもてなし環境の向上に取り組み、地域の魅力発信と交流人口の拡大を図る。

■令和5年度実績

- ・弥生グルメ提供店舗のPR（のぼり旗、チラシの作成配布）



- ・史跡公園 PR マグネットシートの作成（市公用車等に貼付）



・周遊マップの制作、配布



■今後の取組

令和6年3月の史跡公園オープン後の取組として、以下の方針に基づいて進める。

メニュー・商品開発	青谷上寺地遺跡にちなんだメニュー・商品の考案と開発、チラシ作成によるPR等
物販連携	青谷かみじち史跡公園と連携し、史跡公園内での物販体制の構築やミニマルシェの企画、実施
アダプトプログラム	青谷かみじち史跡公園周辺において、地域ボランティアと協働での清掃・環境美化による受入れ環境の向上を目指す。

●その他の住民が主体となった地域活性化の取組

【青谷さんぽフェス】

青谷の良さを多くの人に知ってもらうため、空き店舗や空き家、空き地を利用し、音楽や飲食のブースを町内各所に設け、町内を周遊してもらう。(主催:青谷地域づくり連絡協議会)

<日時>令和5年10月9日(月祝)10~15時

<参加人数>約3,000人



【夏泊の海女漁復活の取組】



夏泊の海女漁は 400 年以上の歴史があり、最盛期には約 30 人の海女がいましたが、高齢化や後継者不足により2013年には海女組合が解散となりました。一度はなくなってしまった海女漁ですが、地域住民が復活に取り組み、現在は 3 人の海女が誕生し、海女漁の再開やイガイ飯の販売など、地域活性化に取り組んでいます。(事業主体:夏泊海女の会)



地域振興会議会長会 資料	
令和6年8月7日	
担当課	市民生活部 地域振興課

「鳥取市地域振興未来会議設置要綱」の制定について

1 制定の目的について

地域振興会議(令和7年3月末終了)にかわる新たな会議体として、地域住民が主体となって地域課題の解決に向けて議論することを目的として、令和7年4月1日から「地域振興未来会議」を設置。

※要綱を定め、総合支所区域単位で設置

2 会議の役割

- ① 地域課題や地域振興について調査・研究を行い、解決策について検討すること。
- ② 市に対して地域振興に関する提案を行うことができる。
- ③ 地域未来プランの進捗管理を行うこと。

3 会議構成

- ・委員人数は、12名以下で、対象地域に住所を有する者もしくは勤務している者のうちから市長が委嘱する。(任期2年)
- ・必要に応じて要綱の見直し等を行う。

4 会議内容

- ・年6回程度 オブザーバー出席可

5 地域未来プランについて

地域特性や地域資源を活かして、地域課題解決や地域活性化についてどのように取り組んでいくかを示すもの。(計画期間5ヶ年・R7～R11)

<記載内容>

【目的位置づけ】

地域特有の課題の解決に向け、それぞれ特有の地域資源を活かして、地域振興を図る

【地域の現況】

位置、地勢、人口について

【地域の特性・資源】

地域の歴史、地域の特性、地域の資源について

【地域の現状と課題・目指す将来像】

現状と課題を踏まえた目指す将来像を記載

